

平成 21 年度伊佐市 12 月補正予算（案）の概要 及び平成 21 年度事業の進捗状況について

1 補正の基本的な考え方

人事院勧告に基づく人件費の調整及び各事業の進捗状況を踏まえた予算調整を行うとともに、生活保護対象者の増加や障害者自立支援法の給付費増への対応、県補助事業の導入に係る経費ならびに「子ども交流支援センター（仮称）」建設に係る経費などについて所要の措置を講じております。

2 補正予算（案）総括表

（単位：千円）

	当初 予算額	4月 補正	6月 補正	9月 補正	10月 専決	予算現額	12月 補正(案)	予算合計 (案)
一般会計	13,880,000	50,400	556,944	1,640,254	72,853	16,200,451	273,948	16,474,399
特別会計								
国民健康保険事業	4,660,900		34,525	6,982		4,702,407	99,025	4,801,432
介護保険事業	2,939,500		2,118	67,494		3,009,112	△ 1,050	3,008,062
後期高齢者医療	445,000		△ 2,125	4,162		447,037	△ 977	446,060
簡易水道事業	830					830	102	932
農業集落排水事業	206,400			△ 361		206,039	△ 419	205,620
水道事業	収入 479,785 支出 562,430			収入 52,200 支出 86,805		収入 531,985 支出 649,235	収入 0 支出 △ 983	収入 531,985 支出 648,252

3 主な補正項目・事業

※ 金額は概数

（1）快適で安心・安全な生活環境と福祉環境の向上のために

① 高規格救急車等の導入に係る消防組合負担金の増 1,200 万円

救急医療体制の充実のために、伊佐湧水消防組合が高規格救急車や高度救命医療処置資材を導入する経費について、新たに負担を行います。

② 全国瞬時警報システム整備事業 270 万円

自然災害情報や有事の弾道ミサイル情報などの緊急事態に関する情報を瞬時に伝達するために、国と地方公共団体間を結ぶシステムを導入します（全て国費で対応します）。

③ 生活保護対象者の増加等への対応 8,000 万円

生活保護に係る母子加算の復活への対応（180 万円）や、対象者増による医療扶助・介護扶助の措置費に係る予算の増額を行います。

【参考】保護対象者当初見込み：240 世帯（320 人）→ 11 月 1 日現在：257 世帯（335 人）
合併時（H20.11.1 時点）231 世帯（300 人）→ +26 世帯（35 人）

④ 障害者自立支援法による給付費増への対応

5,300 万円

旧制度の障害者支援施設が障害者自立支援法の就労支援サービス施設へ移行したことで、障害者の就労意欲への対応が可能になり、就労移行支援、就労継続支援のサービス利用者が増えたことと、障害福祉サービスの報酬の改定により、当初見込給付額より増額となることに対応します。

【参考】

	平成20年11月1日 (合併時)	平成21年9月1日	→約3,500万円の増額
就労移行支援	2人	8人	
就労継続支援	22人	58人	

* 就労支援サービスにより事業所「工房 あげぼの」でパンづくりや有機野菜づくりなどが行われ、市内のカフェレストランでの販売や料理の提供などにかかれています。また、事業所「ひまわりの家」では、地元の食材を使った「みそ」や「そば粉」の製造・販売などが行われています。

* このように、就労支援サービスが充実したことにより、障害を持つ方の社会参加やいきがづくり、自立へのお手伝いがなされています。

(2) 子育て支援の充実のために

○ 「子ども交流支援センター（仮称）」建設事業【マニフェスト関連事業】

1 億 1,400 万円

伊佐市の“子育て支援の核”である「伊佐市子ども交流支援センター（仮称）」の建設を行います。 → 別紙(6ページ)を参照ください。

(3) 人事院勧告による職員給与費等の減額

△6,380 万円

4 平成 21 年度の主な事業の進捗状況について

※ 金額は概数

(1) 出産・子育て支援

① Hib ワクチン接種の全額負担による実施【マニフェスト関連事業】

予算額：330 万円

○ 接種状況

(単位：人)

	北薩病院	寺田病院	計
7月	11	18	29
8月	25	27	52
9月	18	12	30
10月	30	41	71
計	84	98	182

21 年度の対象者 446 人（見込）に対し、182 人接種
→ 40.9% 執行済額：137 万円

* 今後も三種混合ワクチンの接種案内と併せて接種の勧奨を行うので、希望するほとんどの対象者が接種を受けるものと思われます(三種混合接種者の約67%が Hib ワクチンも接種されています)。

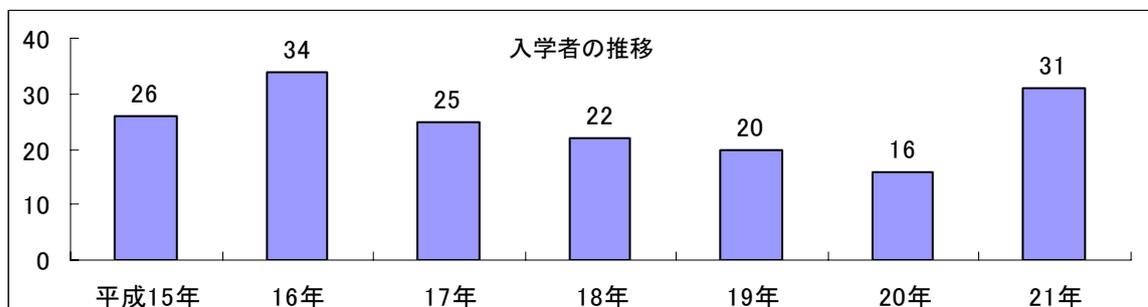
(2) 安心で健康な生活の確保と利便性の向上

① 伊佐医師会立准看護学校支援 【マニフェスト関連事業】 予算額：2,000万円

地域医療充実のための人材確保に向け医師会立准看護学校の運営支援を行うものです。

概ね10年間の同校の運営にかかる支援として2,000万円を交付しました(9/11)。

→平成20年度よりも15名多い31名が入学されています。

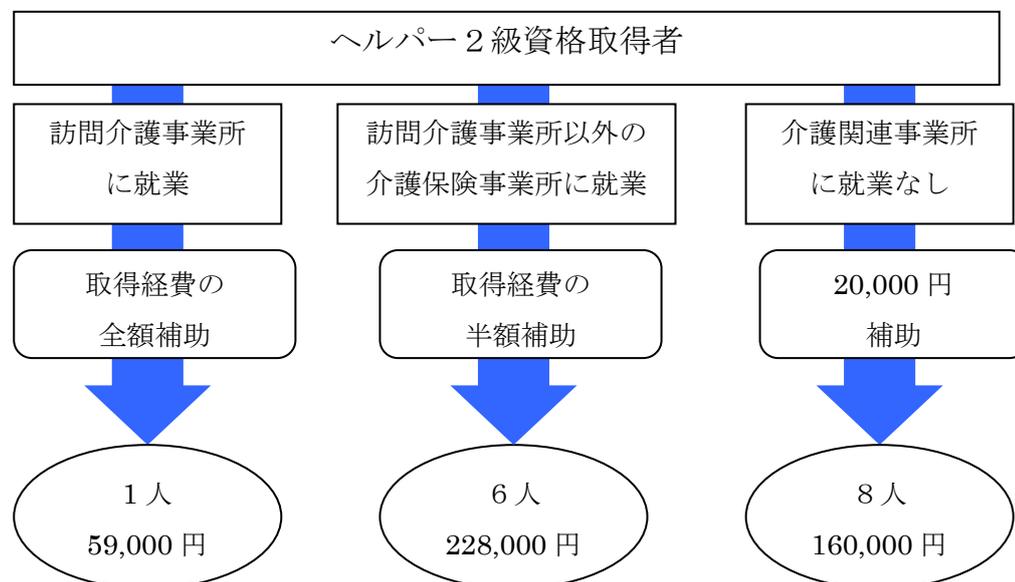


【参考】21年度の年齢別入学者数：10代：10人、20代11人、30代：7人、40代：3人

② ヘルパー養成支援（雇用対策と併せて）【マニフェスト関連事業】 予算額：85万円

高齢化の進展に伴い、高齢者の介護に係る人材確保が喫緊の重要課題となっていることから、訪問介護員（ヘルパー）人材の育成と就労支援に資するため、ヘルパー2級の資格取得に係る経費について就業状況を加味して補助を行っています。

10月末時点での補助金交付状況は以下のとおりです。執行額：44万7千円



※一人当たり38,000円

【参考】

*平成20年度実績は1名。

*平成21年度は残予算（約40万円）で今後も対応していきます。

*新政権が示す雇用対策において、介護従事者の雇用確保（「働きながら資格をとる」介護雇用プログラム）について謳ってあることから、具体的施策等を検証し、今後出される補正予算や平成22年度当初予算を踏まえて新年度に向けた対応を行う予定です。

③ PET検診の受診補助 【マニフェスト関連事業】

予算額：200万円

- ・6月補正予算で100万円計上し、8月に広報誌にて20人を募集しましたが、すぐに定員に達しました。
- ・これを受けて、11月に追加募集（人間ドック受診補助から流用：20人分）しましたが、すでに定員に達しています。
- ・・・市民の意識の高さを実感しています。市制施行記念事業で同検診についての講演を実施したことも影響したと考えられます。

予算執行額：(予約を入れて) 200万円

* 受診者の状況

	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	計
男	1	0	6	8	2	17
女	0	1	5	14	3	23
計	1	1	11	22	5	40

(3) 緊急経済対策・産業振興

① 緊急雇用創出事業

予算額：5,300万円

(賃金に係るもの：2,470万円、その他：重機借上・備品購入など)

道路作業員等の雇用実績と被雇用者の就職状況は以下のとおりです。

* 雇用実績

所管課	作業内容	雇用期間	人数	賃金 (1日:円)	支払額 (千円:概数)	作業実績
建設課	高木伐採	4~9月	10	7,000	7,082	市内55箇所(12.5km)の支障木伐採
	市道草払・水路浚渫	5~10月	8		6,207	27路線の除草、20箇所の水路浚渫
林務課	林道草刈・側溝浚渫	5~10月	9		5,130	林道7路線(26.6km)の除草・側溝浚渫
農政課	農道草刈・側溝浚渫	5~10月	8		5,375	農道除草・側溝浚渫(19.2km)、市有地除草17箇所
計			35		23,794	

* 被雇用者の年齢構成：50歳以上20人、40歳代5人、30歳代4人、20歳代5人

* 被雇用者の就職状況

時期	人数	就職先
雇用期間内	3	介護施設、製造業(養豚・焼酎製造)
雇用期間終了後	7	電子部品製造関連会社、建設関連会社、警備会社など

② 広域堆肥センター整備関連事業【マニフェスト関連事業】

21年度予算額：3,600万円

畜産環境の保全と堆肥を活用した農業の推進を図り、環境と安全が両立した地域農業経営に資するため、優良有機肥料を農家に供給する堆肥センターを大口白木に設置しました。

運営は、伊佐農業公社が行い、J A伊佐、市はその運営経費の一部を補助します。

【事業概要】

平成13年度より建設事業の実施 総事業費：11億1,200万円

- ・ 県営中山間地域総合整備事業K AM伊佐地区 10億2,600万円
- ・ 畜産環境整備事業 8,600万円

完成：本年11月18日に完工式を行い、“微生物（マイエンザ）で美しい伊佐を”と題し、消臭・発酵促進に効果のある新環境微生物の開発者である「曾我部 義明氏」に記念講演をお願いしました。

製造した堆肥は本年12月中旬より有機米生産者に対しバラ散布を開始する予定です。

また、今後は、園芸農家を中心にバラ・袋物の販売をJ A伊佐各支所で行うとともに、作物別に肥料の効果等を実験し、今後の活用に役立てる予定です。

【お問合せ先】 伊佐市役所 財政課 財政係
電話：0995-23-1311（内線1141・1142）
e-mail：zaisei@city.isa.lg.jp

(別 紙)

伊佐市子ども交流支援センター（仮称）の概要について

1 施設整備計画

1) 施設の規模

木造平屋造 560 m²

2) 事業費

1億1千400万円

3) 資金計画

・森林整備推進等基金事業（県産材利用開発支援）、起債

4) 施設の内容

- ・療育指導室 4室（4グループ 同時に療育指導の実施）
- ・プレイルーム （動きの大きな療育指導の実施・親子教室）
- ・相談室 （子育て不安についての相談）
- ・研修、会議室 （各種研修会、子育て支援ネットワーク会議、相談）
- ・摂食指導室 （食事指導・給食配膳）
- ・多機能トイレ （子どもの状況に応じたトイレ指導）
- ・医務室

2 おぎゃー献金記念堂から、きめ細やかな子育て支援

【日本一子育てに優しい街を目指して】

伊佐市は子育てにやさしい伝統があります。故遠矢善栄先生が、すべての子供たちに少しでも幸福を分け与えたいと考え、健康な赤ちゃんをお産されたお母さん方と、それに立ち合った医師や看護師さんたちが愛の献金として「おぎゃー献金」を発案されました。

此所「おぎゃー献金」の発祥の地に、きめ細やかな子育て支援を行う施設「子ども交流支援センター（仮称）」の整備を行うことで、現在まで培われた伊佐市の障害児支援、子育て支援を充実して産婦人科病院、北薩病院小児科等の医療と教育、福祉関係等との連携により日本一子育てに優しい街を目指します。

【療育指導・子育て相談】

伊佐市の子育て支援は、子ども発達支援センター「たんぼぼ」を中心に子育て支援センターや保育園、医療機関、福祉、教育が協力してネットワークを形成して行っております。

しかし、現在の「たんぼぼ」の施設では、増大する子育て支援のニーズの対応に様々な機能を持った子育て支援拠点としては手狭です。そこで「たんぼぼ」の療育指導を充分に行い、支援の必要な子どもの相談支援を行う、療育センター機能と継続的なチームケアを行う相談機能の子育て支援が一体的に行える拠点として整備します。

・伊佐市子ども発達支援センター「たんぼぼ」

※療育指導 ⇒ 発達に不安のある就学前乳幼児に発達段階と障害特性を考慮して少人数で丁寧に、身の回りのことや、運動、ことば、社会性などの経験を積み重ねて全体的な発達をうながす。

※現在は57人が週2回か週1回通園 ⇒ 80人が週4回か週2回通園が可能

・親子教室事業

子育てに不安がある親子の支援教室

・相談支援事業

子育て支援センター、保育園、幼稚園、学校、家庭児童相談室などが単独で対応の困難なケースに医師、臨床心理士などの専門家と連携して相談支援を行います。